

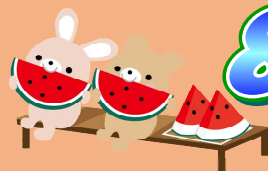
生涯学習情報紙

発行：大和村教育委員会事務局・中央公民館

第380号

2025

8月



第66回大島地区スポーツ大会

第66回大島地区スポーツ大会が、7月12日(土)から始まりました。大和村でも13日(日)に、大和村民プールで水泳競技とスポーツ少年団水泳競技が、合同開催されました。それぞれの競技において、各地区の代表として頑張る選手の姿が見られました。

参加された選手の皆さん、感動をありがとうございました。お疲れ様でした。

＝大和村の競技結果＝

カヌー競技(男子):優勝(4連覇)

バドミントン競技(女子):準優勝

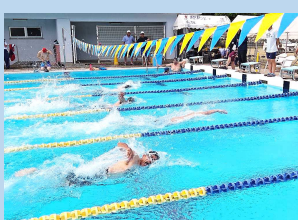
水泳競技(男女総合・女子総合):第3位

テニス競技(森・山下ペア):第3位

※特にカヌー競技(男子)の4連覇は、圧巻でした。



優勝した男子カヌーチーム



水泳競技

公民館講座紹介(短歌教室)

今回は、7月9日(水)に開催された短歌教室の様子を紹介いたします。

今月の兼題は、「川・文月・七月」。互いの作品を野田日出子先生を中心に、「『消え去り』よりは『消えたり』の方が良いのでは」などと添削し、秀作に仕上げていました。この和気あいあいの講座で受講生の感性も磨かれています。



昭二兄よの四方山話 (よもやまばなし)



色の呼び名



私たち奄美語には、色の呼び名も独特な言葉があります。今は、ほとんど聞くことがない絶滅に近い言葉もあり、思い出してみたいと思います。最近感銘を受けたのは、アマミノクロウサギミュージアムの名前「くるぐる」です。島の言葉が、みごとに館とマッチしたネーミングで、発想のすばらしさに感動しました。色に対する言葉は、畳語(じょうご)がよく使われますが、シマ言葉にも使います。黒の反対、全体が白の場合は、「シルシル」、青の場合は、「オウオウ」、黄色の時は、「キギギ」と呼んでいます。本土の言葉と似通った言い方もあり、また、全体が黒い時に使う「くろだらけ」をシマ言葉では、「クルンダラキ」と表現しています。赤は、「ハンダラキ」、青は、「ウオンダラキ」と読んでいますが、「何色だらけ」を表す古い言葉に「ジャラコ」という言葉があり、最近ではほとんど聞くことはありません。全体が赤色の場合は、「ハアジャラコ」、黄色の時は、「キイジャラコ」と言いますが、主に上下同じ色の服を着ている時などに使う言葉ですが、浦内地区でよく使われていました。

不適切な表現ではありますが、人の顔色に対する言葉もあります。栄養不良や驚愕のあまり青白くなっている状態の顔を「オウジャキルイ」といい、日焼けではない黒い顔を「クルヴェッタ」・「スイツィグルガオ」という言葉も最近ではあまり聞きません。古い言葉が消えゆく現代ではありますが、先人が残した言葉は、いつまでも残したいものです。

※畳語(じょうご)・・・意味を強めたりする繰り返す言葉。

8月は、人権同和問題啓発強調月間です。

部落差別(同和問題)をはじめとする人権問題を解決するためには、県民に人権尊重の理念が普及し、その理解を深めていくことが重要です。このため、県では8月を「人権同和問題啓発強調月間」と定め、この期間中に各種の啓発活動を集中的に実施します。全ての人の人権が尊重される社会づくりのためには、私たち一人ひとりが、自分の人権だけでなく、他人の人権についても正しく理解し、一人ひとりの多様性を認め合うことが大切です。この機会に、あなたの身近なことから人権について考え、そして行動しましょう。